

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 短調 op.104 ★

約40分

Antonín Dvořák: Cello Concerto in B minor, op.104

第1楽章 アレグロ Allegro

第2楽章 アダージョ・マ・ノン・トロッポ Adagio ma non troppo

第3楽章 アレグロ・モデラート Allegro moderato

休憩(20分) Intermission

ベルリオーズ：幻想交響曲 op.14

約50分

Hector Berlioz: Symphonie fantastique, op.14

第1楽章 「夢、情熱」

ラルゴ — アレグロ・アジタート・エ・アパッショナート・アッサイ
<Rêveries - Passions> Largo - Allegro agitato e appassionato assai

第2楽章 「舞踏会」

ワルツ：アレグロ・ノン・トロッポ
<Un Bal> Valse : Allegro non troppo

第3楽章 「野の風景」

アダージョ
<Scène aux Champs> Adagio

第4楽章 「断頭台への行進」

アレグレット・ノン・トロッポ
<Marche au Supplice> Allegretto non troppo

第5楽章 「ワルプルギスの夜の夢」

ラルゲット — アレグロ
<Songe d'une Nuit du Sabbat> Larghetto - Allegro

指揮：カーチン・ウォン Kahchun Wong, Conductor

チェロ：佐藤晴真 Haruma Sato, Cello (★演奏曲)

管弦楽：兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

※演奏時間は目安です。前後する可能性がありますので、予めご了承ください。

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 短調 op.104

「チェロ協奏曲」の王様のような存在で、メロディが美しく、力強い音楽が豊かな響きで繰り広げられます。ドヴォルザークのアメリカ生活における置き土産とでも言える作品です。本日の独奏者である佐藤晴真は、2019年にミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門で日本人として初めて優勝したことで、一躍、注目を集めました。チェリストにとっては避けては通ることのできない曲になるわけですが、旬のチェリストの充実した演奏をお楽しみいただけることと思います。

アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)はチェコの国民的作曲家で、抜群のメロディ・メーカーとしても知られます。19世紀の後半は民族主義の気運が高まる中で、各々の民族が育んできた音楽に根ざした芸術音楽の創造が盛んとなりました。民謡が用いられるだけでなく、リズムや和声にまで民族の固有の要素が盛り込まれた音楽が数多く書かれたのです。ドヴォルザークはチェコにおいては、ドイツのゲルマン音楽の伝統に則った保守的な形式主義者と位置づけられてきましたが、時を隔てて味わってみると、あちこちからドイツの音楽にはない響きが浮かび上がるのが感じられます。ドヴォルザークの生まれたボヘミアは、ゲルマン文化とスラブ文化がふつかり合う場所とされてきました。

さて、1892年9月にドヴォルザークは、ニューヨーク・ナショナル音楽院の院長就任のためにアメリカへと赴きます。見知らぬ異国での暮らしは、相当な負担になったようです。1895年の4月末にプラハへ戻った後、ドヴォルザークは再びニューヨークへ向かうことはありませんでした。その直前の1894年(53歳)11月から翌年2月にかけて作曲されたのが、この《チェロ協奏曲》でした。ボヘミアのチェロ奏者で友人のハヌシュ・ヴィハンからの依頼で書かれた作品。初演は帰国後の1896年3月19日にロンドンで、作曲者自身の指揮で行われました。当のヴィハンは独奏部分が難しすぎるとして、レオ・スターンというチェリストが初演を担いました。後にチェコでの初演はヴィハンが行なっていて、作品は彼に献呈されます。

3つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉は息が詰まるほど切ない響きの応酬となります。激しい起伏が連なって、堂々とした音楽があらわれます。〈第2楽章〉ではクラリネットとチェロの独奏が絡み合って、愛のデュエットが美しく奏でられました。楽章の途中で独奏チェロが歌う切ない旋律は、自作歌曲の〈わたしにかまわないで〉がもとになっています。かつて恋をしたヨゼフィーナが危篤と知らされて、ドヴォルザークはかつて片思いをした彼女がよく歌っていた自作を引用しました。〈第3楽章〉にはうねるような音楽の中で、途切れることのないメロディが綴られました。コーダ（終結部）はチェコに帰国した後に、ヨゼフィーナの訃報を知らされて書き換えられています。再び〈わたしにかまわないで〉の冒頭部分がヴァイオリンの独奏で引用され、祈りの中で曲が閉じられます。

楽器編成

独奏チェロ、フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン3、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、テューバ、ティンパニ、トライアングル、弦楽5部

ベルリオーズ：幻想交響曲 op.14

21世紀となった今の感覚で聴くとなんてことはないのですが、この作品が書かれたのは、今から200年近く時代をさかのぼった1830年なのです。驚くほど時代を先取りした音楽を、じっくりと味わいたいものです。

エクトル・ベルリオーズ（1803-1869）は19世紀に活躍したフランスの作曲家。この作品が書かれた1830年（27歳）というのは、ベートーヴェンが亡くなってから、まだわずか3年後だったということに注目です。初演は同じ年の12月に当時のパリ音楽院のホールで行われました。

《幻想交響曲》の何が新しかったのかというと、「固定楽想」の使用と、これまでにない楽器の扱い方と斬新なオーケストレーション（管弦楽法）の2点に集約する

ことができます。前者は「イデー・フィクス」とも言われ、物語と音楽を結びつけるために何度も同じメロディが形を変えて登場します。「感受性が強く、想像力にあふれた若き芸術家が、恋の苦悩で阿片自殺を図る。彼は死に至らなかったかわりに、奇妙な夢を見る」という内容が、《幻想交響曲》が持つ物語。ベルリオーズは主人公を自分自身に設定して、実在する女優を物語の中で恋の相手に設定しました。パリに来演したイギリスの劇団のシェイクスピア『ハムレット』でオフェーリアを演じた人気女優、ハリエット・スミスソンがその人でした。

後者のオーケストレーションの新しさは、作品の随所にあらわれます。以下は、そのほんの一例。第2楽章でハーブが2台使われ（楽譜の指定は2パートでそれぞれ複数台）、第3楽章はオーボエが舞台の外から聴こえてきます。さらに、遠くから聞こえる雷が、4人が叩く(!) ティンパニによって表現されます。第5楽章ではこれも舞台の外から鐘が鳴り、弦楽器が弓の木の部分で弦をこする「コル・レーニョ」という奏法に注目です。それぞれ2組のティンパニと大太鼓がとどろくフィナーレも新機軸と言えるでしょう。

5つの楽章で構成されます。第1楽章〈夢、情熱〉で長い序奏の後にフルートとヴァイオリンで奏でられるのが「固定楽想」です。「恋人の主題」とも言われるこのテーマは、この作品の中で度々登場して、物語の主人公との関係を表現します。第2楽章〈舞踏会〉は夢見るようなワルツ。「固定楽想」は木管楽器にあらわれず。主人公は恋する相手を見つけ出しました。華やかな音色が浮かび上がります。第3楽章〈野の風景〉では前述したとおり、牧童の笛の吹き交わしがあります。広大な風景が響きの中から投影されるようです。「固定楽想」は沈んだ響きの中で少しだけの登場。第4楽章〈断頭台への行進〉から世界が変わります。ホルンがうめき声をあげ、ファゴットがもだえ苦しみ、最後には「固定楽想」がクラリネットで聴こえたかと思うと、ギロチンが落ちるといふ恐ろしい音楽になりました。第5楽章の〈ワルプルギスの夜の夢〉という題名は、ベルリオーズが夢中になっていたゲーテの『ファウスト』に由来します。「魔女の饗宴」が狂乱の中で描かれるのですが、

PROGRAM NOTE

クラリネットが「固定楽想」を奏で、死を暗示するためにグレゴリオ聖歌の「怒りの日」のメロディが鳴り響くと、最後は凄まじいフィナーレが待ち構えています。

さて、「わくわくOnlineオーケストラ教室」でインターネット検索をすると、この兵庫芸術文化センター管弦楽団（PAC）が演奏する《幻想交響曲》の動画が配信されています。現在は一部の楽章だけですが、順次、残りの楽章がアップされる予定です。佐渡裕芸術監督が指揮するPACの全曲演奏だけでなく、佐渡監督と妖精パックの楽しいかけ合いでの解説が、ポイントで抜き出した演奏の実例と共に示されています。本日のカーチュン・ウォン指揮の演奏との聴き比べをしてみるのも一興ですね。あちこちから引っ張りだこの人気指揮者であるカーチュン・ウォンは、先月のブラームス・プログラムの演奏会に続いてのPACへの登場となり、息のあったコンビネーションが期待されるところです。

楽器編成

フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン持替）、
クラリネット2（E♭クラリネット持替）、バスーン4、ホルン4、トランペット4、トロンボーン2、
バス・トロンボーン、テューバ2、ティンパニ2、大太鼓2、シンバル、鐘、タンブーロ、ハーブ2、弦楽5部
バンダ：オーボエ

- ※この公演の録音・録画・撮影および、そのための機材の会場内への持ち込みは固く禁じられています。
- ※音や警報音の鳴る機器（補聴器、アラーム付時計等）をお持ちの方は、上演中音が鳴らないようご注意ください。
- ※客席内では携帯電話は使用できませんので、電源をお切りください。
- ※演奏中の会話、客席内でのご飲食はご遠慮ください。

新型コロナウイルス感染防止に関するお願いとお知らせ

- ・必ず指定されたお席でご鑑賞ください。
- ・ご鑑賞中も、常にマスクをご着用ください。（マウスシールド不可）
- ・ブラボーなどの声援や、大きな声での会話はお控えください。
- ・途中で退出されますと、ご自身のお席へお戻りいただけない場合があります。
- ・終演時は、分散してのご退場にご協力ください。
- ・客席内は、強制換気システムにより常に外気との入れ替えを行っております。

当センターウェブサイトより、
アンケートへのご協力をお願いいたします。
右記QRコードを読み取って
公演カレンダーへアクセスしてください。
（公演翌日から4月20日まで）



「兵庫県コロナ追跡システム」

をぜひご利用ください。
館内掲示のポスターより
QRコードを読み取ってご登録ください。